

藏文書籍

チベット医学

四部医典 医学タンカ詳解

第一卷

監修 オツアンツォクチェン



PILAR
PRESS

3. ピゲデン(ガンドマーダナ)

「**薬王城の東にはビゲデンという山があり、その山はアルラ(ミロバラン)の森に覆われ、斜面に生えた植物はそれぞれ、根は骨の病気、枝は筋・腱の病気、皮は皮膚の病気、葉は六腑の病気、花は五官の病気、果実は五臓の病気に効果的で、また樹の梢に5種類のアルラの実が結ばれ、それは六味、八效能、3つの消化後の機能を具え、17種の特性をもってあらゆる疾病を取り除くことができる。この魅了的な風景に加え、芳しい香りにも陶酔させられ、享楽にふける。ここは病氣という言葉すら知らない境地である。**



4. マラヤ

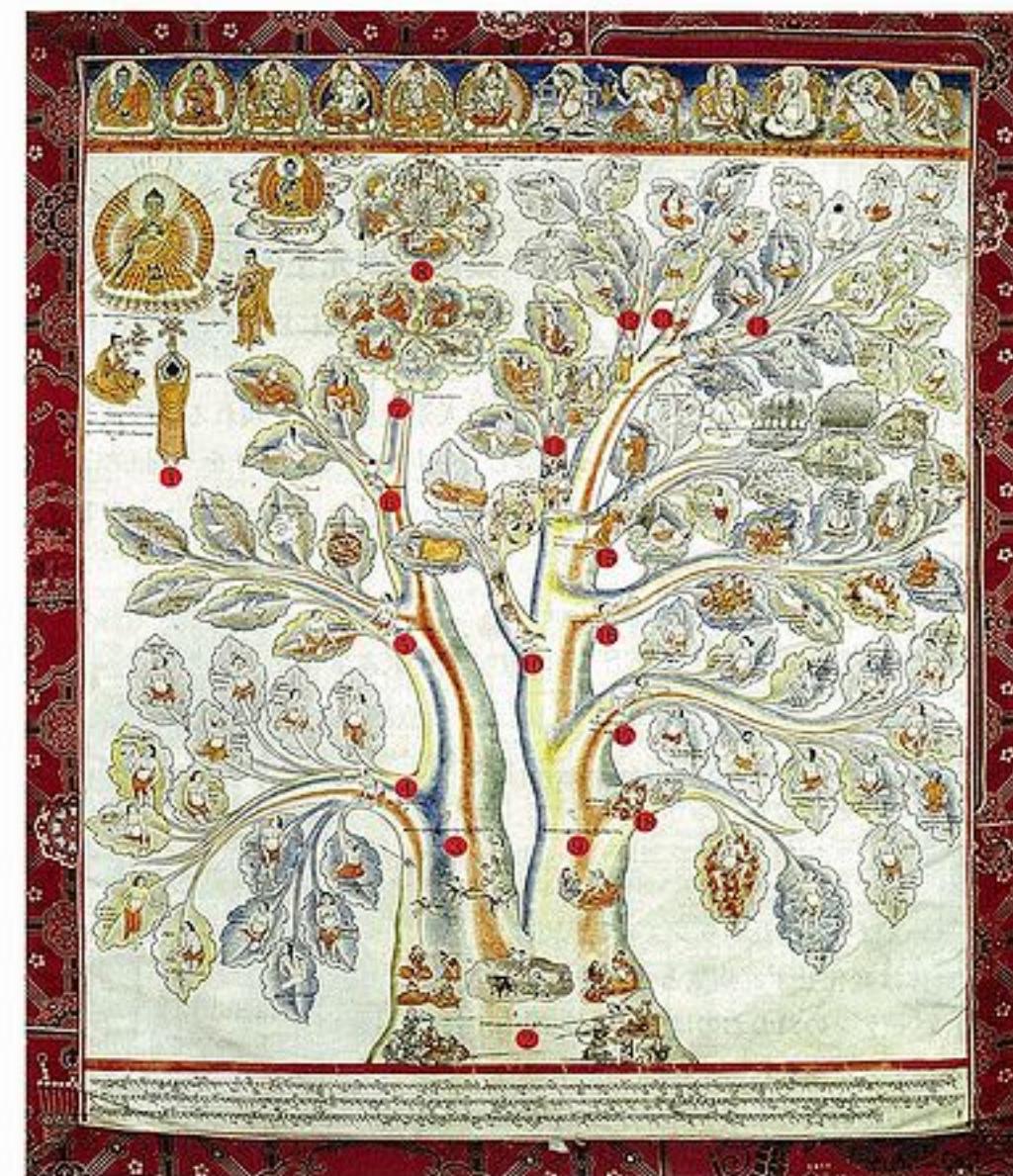
「**薬王城の西にはマラヤという山があり、その山は6種の良薬に覆われ、山の斜面には5種類の寒水石、5種類の「チャクシエン(岩精)」、5種類の薬水、5種類の温泉水などを備えている。あらゆるところに紅花が生え、芳しい香りに陶酔させられる。また岩は岩石薬や塩類薬ばかりであり、薬樹の梢には孔雀、「シャンシャン」(共命鳥)、鸕鷀などの鳥がさえずり、樹の下には象、熊、キバノロなどの動物が生息している。この山はすべての良薬を備えている。**

4. マラヤ

「**薬王城の西にはマラヤという山があり、その山は6種の良薬に覆われ、山の斜面には5種類の寒水石、5種類の「チャクシエン(岩精)」、5種類の薬水、5種類の温泉水などを備えている。あらゆるところに紅花が生え、芳しい香りに陶酔させられる。また岩は岩石薬や塩類薬ばかりであり、薬樹の梢には孔雀、「シャンシャン」(共命鳥)、鸕鷀などの鳥がさえずり、樹の下には象、熊、キバノロなどの動物が生息している。この山はすべての良薬を備えている。**

生理と病理

図2 生理と病理



「**薬王城の東にはビゲデン(ガンドマーダナ)の森があり、その山はアルラ(ミロバラン)の森に覆われ、斜面に生えた植物はそれぞれ、根は骨の病気、枝は筋・腱の病気、皮は皮膚の病気、葉は六腑の病気、花は五官の病気、果実は五臓の病気に効果的で、また樹の梢に5種類のアルラの実が結ばれ、それは六味、八效能、3つの消化後の機能を具え、17種の特性をもってあらゆる疾病を取り除くことができる。この魅了的な風景に加え、芳しい香りにも陶酔させられ、享楽にふける。ここは病氣という言葉すら知らない境地である。**

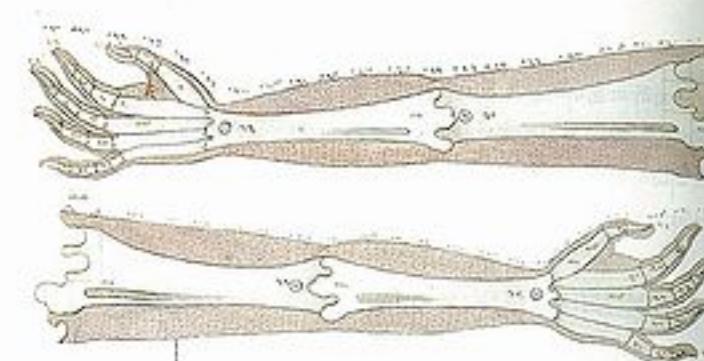
人体の樹の幹から生理と病理といふ2本の幹が生えている。生理の幹から3本の枝が伸び、25枚の葉がついている。病理の幹からは9本の枝が伸び63枚の葉がついている。ニエバ^(*)(ルン、チーバ、ペーケン)の性質に基づき、ルンは青色、チーバは黄色、ペーケンは白色で示され、2色が混じった色は各要素が混合したことを示している。

^(*) ニエバ：生命を司る本質的な生体エネルギー。

- 1. 薬王城の東にはビゲデン(ガンドマーダナ)の森があり、その山はアルラ(ミロバラン)の森に覆われ、斜面に生えた植物はそれぞれ、根は骨の病気、枝は筋・腱の病気、皮は皮膚の病気、葉は六腑の病気、花は五官の病気、果実は五臓の病気に効果的で、また樹の梢に5種類のアルラの実が結ばれ、それは六味、八效能、3つの消化後の機能を具え、17種の特性をもってあらゆる疾病を取り除くことができる。この魅了的な風景に加え、芳しい香りにも陶酔させられ、享楽にふける。ここは病氣という言葉すら知らない境地である。
- 2. 「人体」の根
- 3. 「生理」の幹
- 4. 「生理」の枝
- 5. 「7つの身体構成組織」の枝
- 6. 「3つの排泄物」の枝
- 7. 花
- 8. 果実
- 9. 「病理」の幹
- 10. 「内因」の枝
- 11. 「外因」の枝
- 12. 「病気の侵入経路」の枝
- 13. 「病位」の枝
- 14. 「病気の侵入経路」の枝
- 15. 「発病時期」の枝
- 16. 「結果」の枝
- 17. 「転化」の枝
- 18. 「まとめ」の枝

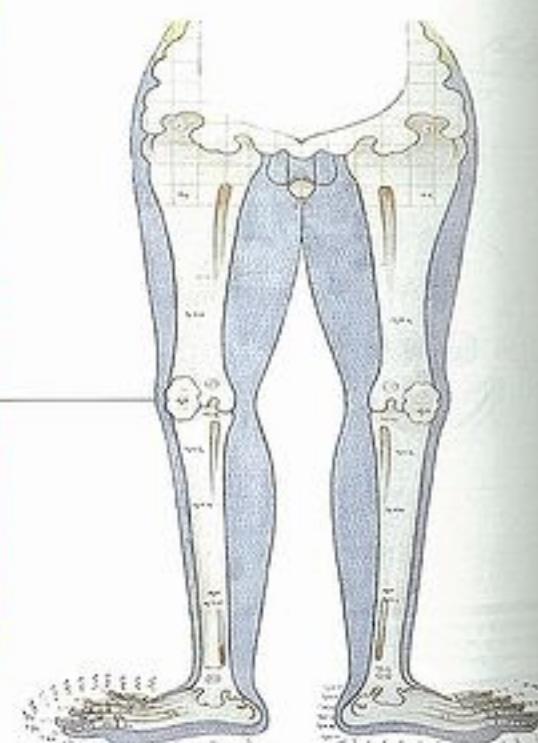
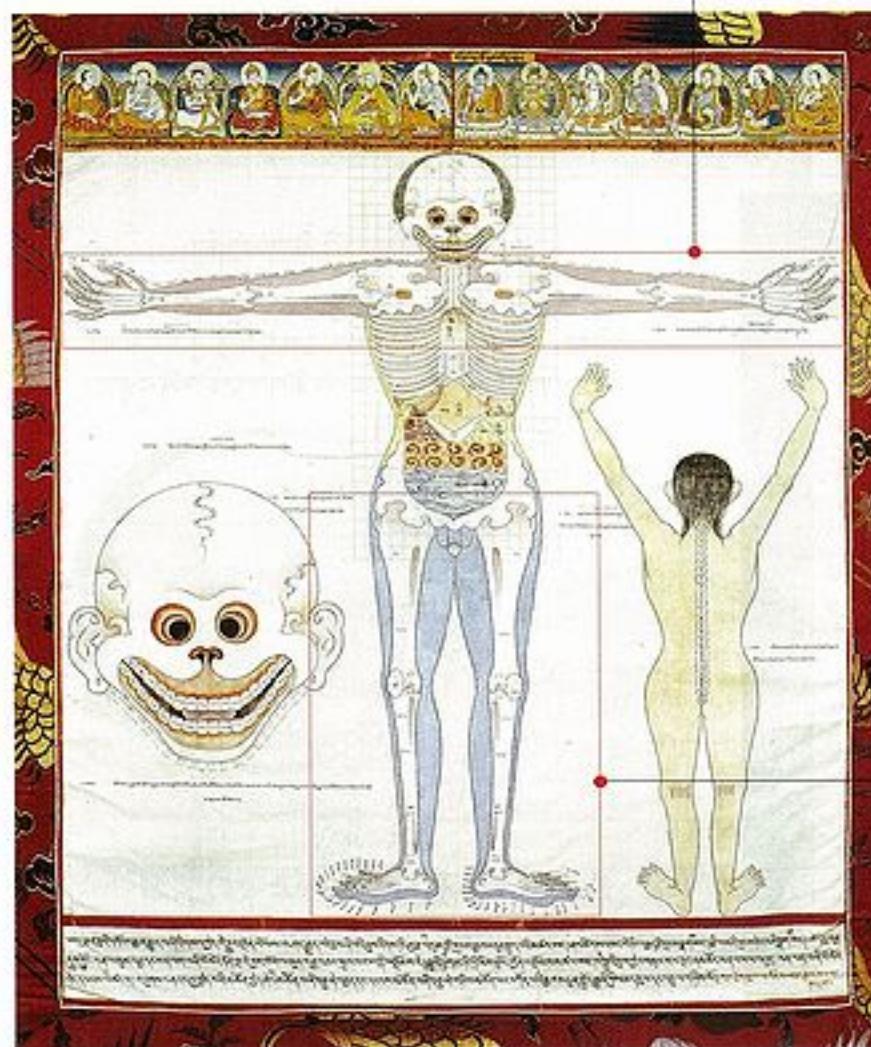
4.3 指の小関節の数

指の小関節は30か所ある。各手指に3か所あり、左右合わせて計30か所あり、肘関節と手関節の両側にそれぞれ1つずつの小関節があり、合計30か所ある。



4.4 上肢の小関節の数

上肢の小関節は34か所ある。各手指に3か所あり、左右合わせて計30か所あり、肘関節と手関節の両側にそれぞれ1つずつ的小関節があり、合計34か所ある。



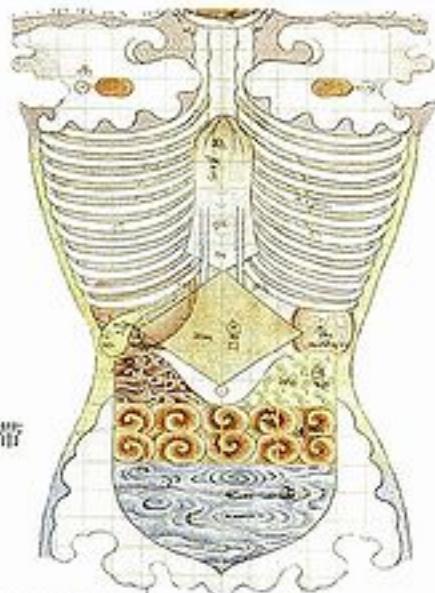
4.5 下肢の小関節の数

下肢の小関節は34か所ある。各足趾に3か所、左右合計30か所あり、膝関節、足首の大関節にそれぞれ2か所の小関節があり、合計34か所ある。

5. 16本の韌帯

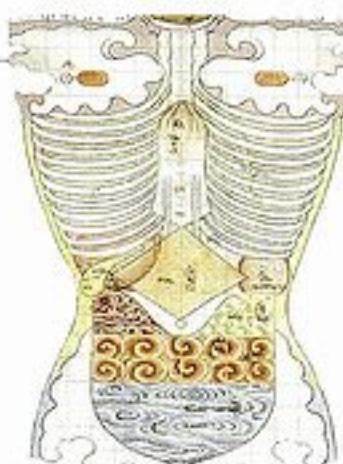
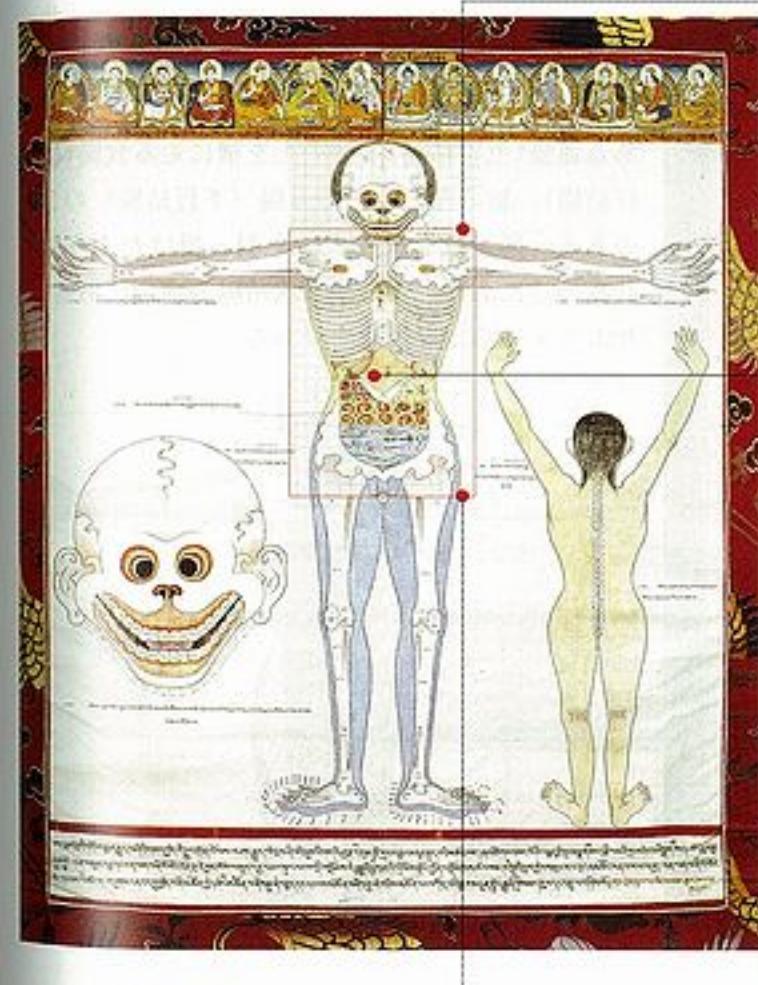
5.1 脊椎内面の韌帯

人体には16本の韌帯がある。そのうち人体正面に属すのは脊椎内面の韌帯である。すなわち脊柱内面の両辺を通る2本の前縦韌帯のことである。



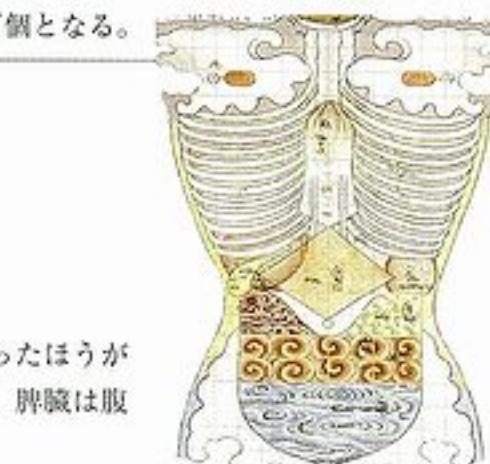
6. 毛穴の数

人体には3,500万の毛穴がある。そのうち首から上に700万個、体幹に1,400万個、四肢にそれぞれ350万個、合計3,500万個となる。



7. 五臓

五臓とは心臓、肺、肝臓、脾臓、腎臓である。心臓は胸腔中央にあり尖ったほう向上いている。肺は胸腔の左右にあり、肝臓は腹腔の右肋骨の下にある。脾臓は腹腔の左肋骨の下にあり、腎臓は下腹部左右にある。



1. 天

天は六道に属す神と属さない神の2種に分けられ、属した神は仏教を好み、須弥山の頂上に座し、体から光が放たれ、空を飛ぶなどの神通力を具えている。この天神がかわることで突如サンスクリット語を話し、少量の睡眠でよく、体が輝き、衛生的になり、長期にわたり安楽な生活を送るようになる。



二、各種「ドゥン」の崇り

1. 天神

天神は六道に属す神と属さない神の2種に分けられ、属した神は仏教を好み、須弥山の頂上に座し、体から光が放たれ、空を飛ぶなどの神通力を具えている。この天神がかわることで突如サンスクリット語を話し、少量の睡眠でよく、体が輝き、衛生的になり、長期にわたり安楽な生活を送るようになる。



2. 魔

魔は六道に属さない神の2種類に分けられ、属した魔は仏教を好み、須弥山の頂上に座し、体から光が放たれ、空を飛ぶなどの神通力を具えている。この魔がかかることで突然サンスクリット語を話し、少しだけ睡眠でよく、体が輝き、衛生的になり、長期にわたり安楽な生活を送るようになる。



2. 阿修羅

阿修羅は六道の須弥山に宿り、神に及ばない程度の神通力をもち、日頃から怒り、驕り高ぶり、争いごとを好んでいる。この阿修羅の崇りを受けることで、酒や肉を貪食し、横目でにらみ、理由なく怒り、高慢でうぬぼれ、すべての行いは粗雑となる。



3. 乾闥婆 (ダンダルヴァ)

乾闥婆は香氣を貪る悪霊で、六道輪廻のパルド（中有）に存在するものと、天界の音楽を楽しむものの2種類に分けられ、甘い香りのもの、あるいは堆肥の臭気に引きつけられる。乾闥婆の崇りを受けることで、香り、着飾ることを好み、自分自身に見惚れ、歌舞に夢中になり、赤い宝石や服装を欲しがるようになる。

4. ナガ魔

ナガ魔は天竜八部の一つであり、海、沼地、泉、樹木などに宿り、毒蛇の下半身に人間の上半身や、魚、おたまじゃくし等の形態をし、「タエ」、「ジョクボ」など、8種が存在する。ナガ魔の崇りを受けることで、顔がつややかになり、眼珠が飛び出し、赤目で直視し、肉や乳製品を好み、舌がよく動き、常にうつ伏せ状態になる。



4. 無能魔

無能魔は天竜八部の一つであり、天、地、水、火、風、空、太陽、月等に宿り、毒蛇の下半身に人間の上半身や、魚、おたまじゃくし等の形態をし、「タエ」、「ジョクボ」など、8種が存在する。無能魔の崇りを受けることで、顔がつややかになり、眼珠が飛び出し、赤目で直視し、肉や乳製品を好み、舌がよく動き、常にうつ伏せ状態になる。



5. 夜叉

夜叉は天竜八部の一つであり、「ドゥン」の王である。北方の「チャンロチエン」に宿り、供え物、肉や脂肪、「フトルマ」などを好む。夜叉の崇りを受けることで、財物などの享受を非常に欲し、小さな声でささやくようになり、バラモン、医師など階級の高い身分を憎み、魚を好んで食べるようになる。



5. 夜叉

夜叉は天竜八部の一つであり、「ドゥン」の王である。北方の「チャンロチエン」に宿り、供え物、肉や脂肪、「フトルマ」などを好む。夜叉の崇りを受けることで、財物などの享受を非常に欲し、小さな声でささやくようになり、バラモン、医師など階級の高い身分を憎み、魚を好んで食べるようになる。

6. 梵天 (プラフマー)

梵天は3つの顔、1つの顔、4つの顔をもつものに分かれ、4つの顔の梵天が最高神であり、全世界の文字の創始者である。梵天の崇りを受けることで経を読み、自己の体を自ら傷め、他人を驚かせ、笑いを好むようになる。

6.4.3 猪の脳

「藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文:」
 脂肪の性質は温性で、心臓病、肺病などの病に効果的である。

6.13.4 人油

病氣以外、例えば転落や武器などで突然亡くなった壮年の人の脂肪。味は甘味。消化後の性質は温性で、心臓病、肺病などの病に効果的である。



6.4.5 犀の脳

「藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文:」
 犀の性質は温性で、消化後は温性で、心臓病、肺病などの病に効果的である。

6.14 脳類

6.14.1 ヤギの脳

このヤギは家畜で、一般的に農村地区で多く見かける。哺乳草食動物で、体型は綿羊に似ているが、やや大きい。あごひげがあり、毛は粗く、色は白や黒が多い。岩山を登るの得意とする。味、消化後の味ともに甘味で、腱や筋を複合させる効能がある。



6.4.6 羊の脳

「藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文:」
 羊の性質は温性で、消化後は温性で、心臓病、肺病などの病に効果的である。



6.4.12 羊の脳

この羊は家畜で、毛の色は白や黒など種類が多い。雄羊は角があり、渦曲している。蹄は割れている。味、消化後の味ともに甘味で、脳震盪や眩暈などの治療に用いる。

6.14.2 鹿の脳

「藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文:」
 鹿の性質は温性で、消化後は温性で、心臓病、肺病などの病に効果的である。



6.14.3 アカシカの脳

アカシカは深山に生息する野生動物で、首、四肢は長く、尾は短い。全身の毛は黒みを帯びた灰色で、四肢の腋下部分は灰色、体はノロに比べてやや大きい。下痢に効果的である。



6.14.4 キバノコの脳

「藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文: 藏文:」
 犀の性質は温性で、消化後は温性で、心臓病、肺病などの病に効果的である。



6.14.5 チベットガゼルの脳

山地に生息する野生動物でヤギに似ている。体は小さく四肢は細く短い。頭は小さく首は長い。首と背毛は灰褐色、前頸、胸部はうすい灰色、背部には丸く大きな斑がある。寒・熱性下痢に効果的である。

4. 水桶

水桶の効能
水桶は、消化不良と食欲不振を改善させる効能があり、便秘を治す。ペーケン病とルン邪氣が引き起こす危害を取り除くことができ、ルン病に対して有益であるが、軽い下痢を引き起こす。



5. ヨーグルト

ヨーグルト
乳を発酵させてできたヨーグルト、あるいは乳に酵素を加えて煮詰めてできた凝固物である。消化不良や食欲不振を改善し、便秘を治す。ペーケンとルン邪氣による危害を治すが、軽い下痢を引き起こす。



6. 捣りたての乳

搾りたての乳
子牛を生んだばかりの牛から搾った乳は消化不良と食欲不振を改善させる効能があり、便秘を治し、ペーケンとルン邪氣が引き起こす危害を取り除く。しかし軽い下痢を引き起こす。



7. 酪素

酪素
バターを取り除いたバターミルク、あるいはホエーを煮詰めたあととの液、あるいはヨーグルトを煮詰めたあとに凝固した酪素である。消化不良と食欲不振を改善させる効能があり、便秘やペーケンとルン邪氣が引き起こす害を治すが、軽度の下痢を引き起こす。

油桶の効能
油桶は、消化不良と食欲不振の改善、胃エネルギーを出す効能がある。古い桶の底にたまつた油は寒性ルン病を治すが、軽い下痢を引き起こす。

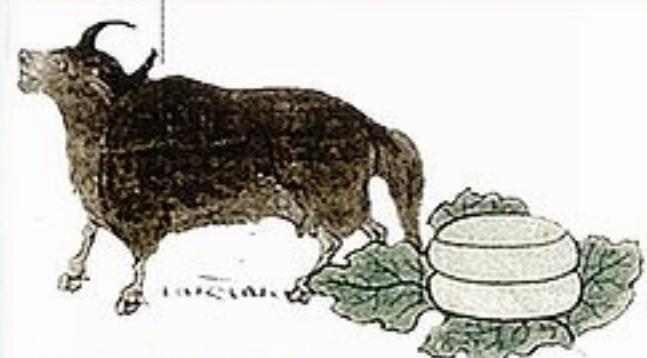
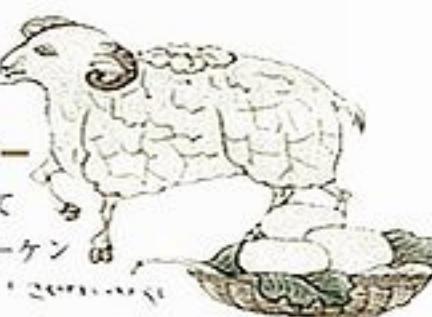


9. ヤク乳のバター

ヤクの乳を搅拌してできたバターは、ペーケンとルン病を治すことができる。胃エネルギーを出す効能がある。古いバターは寒性ルン病を治すが、軽い下痢を引き起こす。

10. 綿羊乳のバター

綿羊の乳を搅拌してできたバターは、ペーケンとルン病を治し、胃エネルギーを出す。古いバターは寒性ルン病を治すが、軽い下痢を引き起こす。



11. 「ゾ」乳のバター

「ゾ」乳のバター
雌のヤクと雄の黄牛の交配種であるゾの乳でできたバターは、寒性ルン病を治し、胃エネルギーを出す。古いバターは寒性ルン病を治すが、下痢を引き起こす。

12. 犀牛乳のバター

犀牛の乳を搅拌してできたバターは、消化不良と食欲不振の改善、胃エネルギーを出す効能がある。古いバターは寒性ルン病を治すが、軽い下痢を引き起こす。

2.2 大地のシンボル
夏季は蛇、馬に属し、五行の「火」が優勢であり、この時季の大地のシンボルは多雨で、樹木、草花などの植物が繁茂する。



2.3 大空のシンボル
夏季の大空のシンボルは4月第15宿「氐」、5月第17宿「心」、6月第19宿「箕」の3宿が各月の満月時に月と一緒に夜明け頃まで現れる。



2.3 大空のシンボル

夏季の大空のシンボルは4月第15宿「氐」、5月第17宿「心」、6月第19宿「箕」の3宿が各月の満月時に月と一緒に夜明け頃まで現れる。



2.4 生物のシンボル
夏季は鳥の王様であるカッコウがさえずる時季である。

2.4 生物のシンボル

夏季は鳥の王様であるカッコウがさえずる時季である。



2.5 夏季72日間は五行の「火」が優勢であり、心臓脈が旺盛である

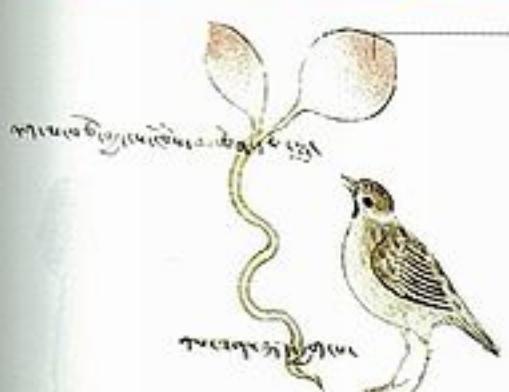
夏季4月1日から数えて72日間は外界五元と体内五行すべての「火」が優勢であり、「火」と同じ性質である心臓脈と小腸脈が旺盛となり、火心脈はカッコウの鳴き声のように太く長い脈象である。



2.6 6月は羊に属す

2.6 6月は羊に属す

6月は羊に属し、五行の「地」が優勢であり、羊の毛を刈る時季である。



2.7 間の季節18日間は「地」が優勢であり、脾臓脈が旺盛である

夏季は4月30日間、5月30日間、6月12日間の計72日間が存在し、夏季から秋季に移行する間の季節が18日間存在する。この移行する時季は外界五元と体内五行すべての「地」が優勢であり、「地」と同じ性質である脾臓脈が旺盛となり、地脾脈はスズメのさえずりのように短く滑らかな脈象である。